

(別紙1)《会派用》

令和7年8月12日

狭山市議会議長

内藤光雄様

会派名 健政会

代表者氏名 太田博希



視 察 報 告 書

このことについて、別紙のとおり、報告がありましたのでご報告いたします。

代 表 者 太 田 博 希 様

視察者（代表）氏名 酒井 英男



視 察 報 告 書

このことについて、次のとおり報告します。

- 1 期 間 令和7年7月28日
- 2 視 察 先

.....
神奈川県平塚市
.....

- 3 調 査 事 項

.....
平塚市役所
.....

.....
・湘南ひらつか七夕祭りについて
.....

参加者は次のとおり

.....
太田博希、町田昌弘、笹本英輔、酒井英男、
.....

.....
豊泉正人、福田 正
.....
.....

- 5 調 査 概 要

.....
別紙のとおり
.....
.....
.....
.....
.....

狭山市議会 健政会視察報告書

視察日 令和7年7月28日（月）

視察先 平塚市役所産業振興部商業観光課

視察テーマ

「湘南ひらつか七夕祭りについて」

1 平塚市の概要

平塚市は、神奈川県南部、相模湾に面した湘南地域の中核都市であり、温暖な気候と豊かな自然環境に恵まれたまちである。市域面積は約 67.88 平方キロメートル、人口は約 25 万 7 千人を擁し、東京・横浜へのアクセスの良さから住宅都市としての性格も有している。

市の歴史は古く、江戸時代には東海道の宿場町「平塚宿」として栄え、戦後は早期の復興を果たしたことから、昭和初期より商業都市・工業都市として発展してきた。特に、日産車体や横浜ゴム、キャノン、古河電工といった大手製造業が立地しており、現在でも市内経済の一翼を担っている。

行政運営においては、地方自治体としての自主性を重視し、2025 年度からは「ひらつか VISION」と題した総合計画を策定。子育て支援、デジタル化推進、地域経済活性化、環境配慮型都市づくりなど、持続可能な地域社会を目指した多様な施策に取り組んでいる。

文化・観光面では、平塚市美術館や市博物館などの公共文化施設を有し、また「かながわ花と緑のふれあいセンター（Kana Garden）」をはじめとする都市公園も整備されている。なかでも、毎年7月に開催される「湘南ひらつか七夕まつり」は全国的に知られ、日本三大七夕まつりの一つに数えられており、市民に親しまれるとともに、全国から多くの観光客を迎える地域の象徴的行事となっている。

2 視察の目的と背景

狭山市では、地域に根ざした「入間川七夕まつり」を毎年夏に開催し、市内外から多くの来場者を迎える中で、まちのにぎわい創出と市民交流の場として大きな役割を果たしている。このまつりは、市民に親しまれてきた伝統ある行事であり、地域文化の継承と観光振興を両立させる重要な施策でもある。

しかし近年、まつりを取り巻く環境には多くの変化が生じている。具体的には、物価や人件費の高騰による運営コストの増加、地域住民の高齢化、ボランティア人材の確保難、若年層の関心の変化、さらには安全対策や環境対策への配慮など、まつりの持続的な運営には多様な課題が山積している。

こうした中で、本会派では、類似の七夕まつりでありながら全国的な認知度と集客力を誇り、平塚市のシンボリックな存在として発展を続けている「湘南ひらつか七夕まつり」に着目した。同まつりの歴史的背景、運営体制、市民・民間との連携のあり方、そしてまちづくりとの連動性など、狭山市のまつり施策にとって極めて示唆に富む要素が多いと判断し、行政視察を実施するに至ったものである。

3 湘南ひらつか七夕まつりの歴史と成り立ち

湘南ひらつか七夕まつりの原点は、戦後復興期の昭和 25 年に開催された「平塚復興まつり」に遡る。昭和 20 年 7 月、平塚市は旧海軍火薬廠を標的とした空襲により、中心市街地の約 7 割が焼失するという壊滅的な被害を受けた。焼け野原からの復興を遂げる中で、市民の希望と地域の再生を象徴する行事として生まれたのがこの復興まつりである。

翌昭和 26 年、地域の商工会議所と商店街が中心となり、仙台の七夕まつりを参考に「平塚七夕まつり」が初めて開催された。以後、昭和 32 年からは市の主催となり、昭和・平成と時代の移り変わりの中で規模と内容を拡大。平成 23 年からは実行委員会方式に移行し、市民や団体、企業の参加を促進する形での自主運営体制が確立された。

本まつりは単なる観光イベントに留まらず、戦後復興の象徴、市民文化の象徴、地域経済活性化の中核、そして交流人口・関係人口を創出するツールとして発展し、今日では「日本三大七夕まつり」の一つに数えられる全国的行事へと成長している。

4 実行委員会の運営体制と財政構造

湘南ひらつか七夕まつりは、現在「湘南ひらつか七夕まつり実行委員会」が主体となって運営しており、その構成は次のとおりである。

(1) 実行委員会の構成と役割分担

実行委員会は以下のように階層的に組織されており、平塚市長を会長、商工会議所会頭、商店街連合会会長、観光協会会長が副会長として名を連ねている。運営面では、以下の各専門委員会が実務を担う。

- ・ 宣伝・協賛・イベント委員会 企業協賛の獲得、PR 戦略、催事全体の企画
- ・ 七夕飾り委員会 飾りの審査、設置計画、技術支援
- ・ 露店出店委員会 露店配置や安全管理、西湘イベント商業協同組合との連携
- ・ 警備・交通委員会 警察・民間警備会社との連携による雑踏警備、交通規制
- ・ 市民サポーターズ委員会 ボランティアの募集・統括
- ・ マナーアップ委員会 来場者・出店者双方への啓発、環境美化支援

これらの委員会の実働を支える事務局機能は、平塚市（商業観光課）、商工会議所、観光協会、商店街連合会が共同で担い、行政・経済界・住民が一体となったまちぐるみの運営体制を築いている。

（２）財政構造と収支の特徴

令和 7 年度（第 73 回）のまつりの予算は次のとおりである。

- ・ 歳入合計：約 1 億 340 万円
 - 市補助金：約 8,523 万円
 - 協賛金：約 800 万円（協賛事業所 159 件）
 - 広告収入：約 180 万円
 - その他収入・繰越金等：約 800 万円
- ・ 歳出内訳の主な項目
 - 委託料（装飾・警備・プログラム製作・清掃等）：7,143 万円
 - 報償費（飾り賞金等）：296 万円
 - 雑踏警備や仮設電源のための工事費：約 780 万円

特筆すべきは、七夕飾り掲出団体への助成制度である。飾り制作と掲出にかかる費用の 3 割程度を市が補助する仕組みを通じて、市民や企業が積極的に参加しやすい環境を整えている。また、出店料は徴収していないが、西湘イベント商業協同組合から協賛金を受け、会場運営費に充てる工夫も見られる。

5 催事・演出と市民参加の工夫

湘南ひらつか七夕まつりが他の地域のまつりと一線を画す大きな要素の一つは、豪華な七夕飾りに加え、地域住民・団体・企業の創意によって多彩な催しが展開されている点にある。単なる観覧型イベントにとどまらず、来場者が能動的に参加できる仕掛けや、世代を問わないエンターテインメント性を重視した構成が随所に見られる。

（１）七夕飾りの特徴と制作・掲出の実態

まつりの代名詞ともいえる七夕飾りは、主に「湘南スターモール」「紅谷パ

ールロード」といった中心商業通りに掲出される。その本数は約 100 本以上にのぼり、ビニール製など耐候性のある素材を用いた絢爛な大型飾りが通りを埋め尽くす。特に夜間には照明が灯され、幻想的な光景が広がり、昼とは異なる表情を見せる。

飾りの制作主体は、地元の商店や企業、市民団体、小中学校の児童生徒など多岐にわたる。一部は専門の制作業者に依頼されるが、多くは地域の手作りであり、創意工夫の結晶である。掲出作業は、まつり前日の夜 9 時以降に交通規制をかけたうえで一斉に行われ、各団体による自主管理体制が敷かれている。

(2) 市民参加型の演出・催し

まつり期間中には、以下のような市民参加型の催しを実施されている。

a セタおどり千人パレード

初日の午前中、参加者が一体となってメイン会場を踊り歩く催し。まつりの開幕を象徴するイベントであり、老若男女問わず多くの市民が参加する。

b 織り姫市中訪問

祭りの顔ともいえる「湘南ひらつか織り姫」が、実行委員会メンバーとともに市内福祉施設や自治会等を訪問。開催前から地域にまつりの雰囲気をお届け、地域連携の一環ともなっている。

c 市民ステージ

「ひらしん平塚文化芸術ホール」において、友好都市の郷土芸能披露、市民団体によるダンス・合唱など多様な演目が披露される。運営は地元 FM 局（湘南コミュニティ FM）が担う。

d 短冊企画

短冊を会場内や公園で販売・掲出。観光客も気軽に参加でき、まつりへの一体感を醸成している。

(4) イベントブース・露店出店の工夫

平塚商工会議所青年部や平塚青年会議所によるテーマ型ブースの出展や、協賛企業による PR ブースも目を引く。また、飲食・物販の露店はかつて 1,500 軒に及ぶ規模で展開されていたが、現在は地域住環境や安全への配慮から 100 軒前後に抑制され、秩序だった配置と品質向上が図られている。

5 観光振興と地域経済への効果

湘南ひらつかセタまつりは、単なる地域イベントを超えた「観光資源」としての側面が極めて強い。とりわけ、地域経済への波及効果と広域的な集客

力は、他のまちづくり施策と比較しても大きな成果を上げている。

(1) 観光客数と消費動向

令和6年(第72回)の来場者数は約110万人、観光消費額は約25億3千万円にのぼる。1人あたりの消費額は約2,300円と想定され、まち全体として大きな経済的インパクトがある。これにより、飲食業、小売業、宿泊業、交通事業など地域経済の多方面に波及効果が広がっている。

(2) 広域誘客・関係人口創出への工夫

まつり開催に向けては、近隣自治体や外国人観光客に対しても広報展開が行われている。県内外の官公庁、企業、交通機関へのポスター配布に加え、SNSやWebサイトを通じた情報発信も活用。さらには、観光協会を中心とした来訪者対応、パンフレット配布、イベント案内も効果的に行われている。

(3) 観光動向調査と活用

実行委員会では、パンフレットや会場設置のQRコードからアンケートを回収し、来場者の年齢層、地域、まつりに対する評価、消費動向などを把握している。こうしたデータは次年度以降の企画改善、動線設計、プロモーション戦略に反映されており、PDCAサイクルの形成に寄与している。

6 安全対策と環境配慮

大規模イベントの開催にあたっては、安全性と環境対策の両立が極めて重要である。湘南ひらつか七夕まつりでは、これらの観点に対しても高度な配慮がなされていた。

(1) 警備体制・雑踏管理

警備体制は、委託警備員465名と平塚警察署の連携によって構築されている。とりわけ雑踏が発生しやすい交差点、露店エリア、ステージ前には重点的に警備を配置。通行の一方通行化や仮設フェンスによる導線確保により、安全で快適な回遊性を担保している。

(2) 熱中症対策

7月という猛暑の中での開催に備え次のような熱中症対策が行われている。

- ・ミストファン：全14台（飾り観覧エリア、見附台公園）
- ・休憩テント：9張に拡充（涼風・日陰確保）
- ・クーリングスポット：文化芸術ホール内など冷房空間を開放

これらはクラウドファンディングによる市民の支援も活用されており、「参加型の安全対策」という側面も持ち合わせている。

(3) 環境美化・脱プラの取り組み

- ・大型ゴミ箱（クリーンボックス）設置
- ・ゴミ分別支援のための人員配置
- ・随時の清掃スタッフ巡回
- ・ボランティア団体によるゴミ収集活動

脱プラについては、露店から出る容器の制限が難しい現状もあるが、将来的にはよりサステナブルな運営を目指す方針が共有されていた。

7 質疑応答

視察当日は、説明の後、質疑応答の時間が設けられ、平塚市職員の方々から具体的かつ実務的な回答をいただいた。

(1) 施設・インフラ整備に関する質問

Q セタ飾りを掲出するための「穴」はどのように管理されているのか？

A 中心市街地の商店街整備時に、歩道上に専用の穴が設置されている。歩道は市が管理しているが、穴自体の維持管理は商店街振興組合が担っている。

Q 竹はどこから調達しているのか？

A 実行委員会が一括して竹材業者から購入し、飾り掲出を行う各団体に配布している。

(2) 運営・財政に関する質問

Q 補助金の扱いは？

A 市から実行委員会に対し一括補助金として支給し、委員会が自主的に予算管理。協賛金や広告収入、寄付等を加えたうえで決算し、報告する。



平塚市役所にて

Q 物価高や人件費上昇への対応は？

A 開催ごとに費用項目を精査。再利用可能な物品を活用し、効果とコストを両立するよう努めている。

Q クラウドファンディングの実績は？

A ミストファン導入の一部資金として約 30 万円の支援を得た。今後も検討したい。

(3) 安全・環境・若者施策に関する質問

Q 若者の関与をどのように促進しているか？

A 飾り制作への参加を青年会議所等を通じて呼びかけ、織り姫事業等を通じて魅力の発信に取り組んでいる。また、「大きな飾りでなくてもよい」という形で、関与のハードルを下げている。

Q 出店数制限の背景は？

A かつては 1,500 軒に達した露店だが、近年は安全確保と周辺住民への配慮を優先し、100 軒前後に絞っている。

Q 警備体制の実際は？

A 警備員 465 名が各所に配置されるほか、会場全体に雑踏対策としてフェンスを配置し、通行を一方通行に設定。

Q ごみ処理の仕組みは？

A 委託清掃員による巡回と、市民ボランティアによる収集、出店者の自主的清掃が一体的に機能。脱プラは今後の課題として認識されている。



平塚市議会議場を視察

8 所感

今回の視察は、七夕まつりを単なるイベントとして捉えるのではなく、「まちづくりの核」として再定義する重要性を強く認識させられる機会となった。湘南ひらつか七夕まつりは、戦後の復興という地域の歴史を起点に、市民が能動的に関わり続け、行政・民間が連携して運営してきたからこそ、全国的にも成功例として高く評価されている。

狭山市においても、入間川七夕まつりを通じて地域の魅力を発信し、市民の交流を促進し、将来世代への文化継承を図るためには、運営体制や仕組みの再構築、若者・市民の巻き込み、そして経済・観光施策との連動が不可欠である。

今回の視察で得た知見を踏まえ、今後は会派としても具体的な政策提案を行い、市民とともに「選ばれるまつり」「続くまちの魅力づくり」へと発展させていきたい。



平塚市七夕祭り会場を視察